

CONTENTS

- 新年のごあいさつ…………… 1
- 第44回 全国土地改良大会沖縄大会…………… 6
- 農業農村整備の集い…………… 7
- 埼玉県知事への要望活動…………… 9
- 令和4年度 第3回理事会・第3回監事会…………… 10
- 金利改定…………… 10
- 連合会日誌…………… 10
- 令和4年度 土地改良施設の診断・管理指導結果の概要 11
- 令和5年度 農林水産予算概算決定の概要…………… 13
- 水土里ネット職員研修会…………… 14
- さいたま水土里ネット女性の会 現地研修会…………… 15
- お知らせ…………… 16
- 第10回 彩の国 農業・農村景観フォトコンテスト…………… 17
- 謹賀新年…………… 21

埼玉の土地改良

濃霧の中で（狭山市）



新年のごあいさつ

水土里ネットさいたま
埼玉県土地改良事業団体連合会
会長 三ツ林 裕己



新年明けましておめでとうございます。会員の皆様には健やかな新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

日頃より、本会の運営並びに農業農村整備の推進に、格別のご支援とご協力頂いておりますこと、心より感謝と敬意を表します。

昨年を振り返りますと、新型コロナウイルス感染症が依然としてまん延し、それに加えてロシアの侵略行為によるウクライナ危機が、国民生活に不可欠な食料とエネルギーの多くを輸入に依存している我が国を直撃しました。

特に原油価格等の高騰に伴って、電気料金が大幅に高騰しました。そのため、全国的水土里ネットが国に対し支援を要請し、本会でも7月に財務省、農林水産省及び埼玉県知事に支援を要請しました。

その結果、国は、「電力・ガス・食料品等高騰重点支援地方交付金」を創設し、また、12月2日に成立した第2次補正予算では、「農業水利施設の省エネルギー化推進対策」が盛り込まれ、土地改良区における農業水利施設の電気料高騰に対する支援が受けられるようになりました。

この国の対応は、二階俊博会長のもと、去る7月の参議院議員選挙で二期目の当選を果たした進藤金日子議員、そして宮崎雅夫議員を中心として、多くの土地改良を推進する議員の声で、政府を動かしたことに由来します。

11月には、第44回全国土地改良大会沖縄大会が沖縄県沖縄市で、3年振りに対面により開催されました。「水土里（みどり）の拓（ひら）くみるく世（ゆ）を鳴らしとうゆまし守禮（しゅれい）の邦から」を大会スローガンに、全国の土地改良関係者、約2,300名が一堂に会し、熱気に溢れたエネルギーな大会となりました。

さて、埼玉県は、昨年は大きな自然災害はありませんでしたが、令和元年10月の台風19号による被害は、未だ記憶に新しいところでございます。

毎年のように、大規模地震や豪雨災害が頻発しており、県民の生命と財産を守るためには、農村地域の防災、減災対策がますます必要となっております。

特に「防災重点ため池」の対策につきましては、県内244か所の「防災重点ため池」のうち、耐震、豪雨及び劣化調査の結果、9割を超える施設の改修が必要になりました。特別措置法は令和12年までの時限法ですので、計画的に改修を進める必要があります。

さて、来年度の農業農村整備関係予算ですが、昨年末閣議決定された政府案では、令和5年度当初予算4,457億円と令和4年度補正予算1,677億円とを合わせ、6,134億円が確保されました。

新型コロナウイルス感染症及びウクライナ危機による疲弊した経済の立て直しのために、政府の財政が非常に緊迫している状況の中で、現場のニーズにしっかり応えられる予算規模です。

農業は国の基です。本県においても、ほ場整備事業等により担い手の規模拡大が進むとともに、新たな担い手も生まれております。引き続き農業農村整備事業の充実した予算を確保し、生産性の向上、農業所得の増大、農家経営の安定等、豊かさを感じる農業農村の実現に向け邁進してまいります。

令和5年の新春を迎え、本会役職員一丸となって、会員の支援に努めてまいりたいと考えておりますので、引き続きご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、本県農業農村の発展と、会員並びに関係皆様方のご健勝とご多幸をお祈り申し上げ、年頭のご挨拶とさせていただきます。

新年のごあいさつ ～未来への確かな布石～

埼玉県知事 大野元裕



明けましておめでとうございます。

昨年はコロナが猛威を振るい、かつてない陽性者数を記録するなど大変厳しい状況でした。

感染症対策に取り組まれた埼玉県土地改良事業団体連合会会員の皆様に、心から感謝申し上げます。

また、昨年はエネルギー価格・物価高騰が進み、県民・事業者の皆様が厳しい状況に置かれました。これには、速やかに補正予算を組み、機動的に対応しました。

農業農村整備分野においては、三ツ林会長をはじめ、各地の土地改良区からの要望を受け、電気料金高騰に影響を受ける土地改良区を支援するための「土地改良施設緊急支援事業」を昨年の9月県議会で議決いただきました。

この事業を御活用いただき、適正な土地改良施設の維持管理に御尽力いただきたいと思います。

県としても、引き続き、農業農村整備に全力で取り組んでまいります。農地や農業水利施設の管理を担い、県土の発展を支えてきた貴連合会の皆様のお力添えが不可欠です。引き続き、御支援、御協力を賜りますようお願い申し上げます。

降ひょう、豪雨、土砂災害などの災害にも迅速的確に対応してまいりました。

こうした危機に対応しつつ、私が知事に就任して初めての5か年計画を4月にスタートさせました。

近年は、変化が激しく予測が難しい時代であり、仕事への取り組み方の「変革」が必要です。

本県が進めるデジタルトランスフォーメーション（DX）は、社会全体の変革を目指すものです。デジタル技術による省力化で生じた時間を、対面の仕事、創造的な仕事、多様な主体との共創的な仕事へシフトさせることが肝心です。

人口減少下でも社会全体の生産性向上により、持続的に発展する社会を構築したいと考えます。

そして、今年こそポストコロナ元年とし、未来を見据えた大きな変革の年にしたいと考えています。

まずは、コロナ対策に最優先で取り組むとともにエネルギー価格・物価高騰に対応し、一日も早い経済の回復を進めます。

その上で、未来への確かな布石として、人材育成としての「人」、強い埼玉県経済に不可欠な「企業」、この人や企業が根付く「地域」、これら「人・企業・地域」三位一体で、持続可能な成長ができる施策を進めてまいります。

また、「日本一暮らしやすい埼玉」の実現に向け、子供をはじめ高齢者、障害者、女性、LGBTQなど誰もが社会に参画する取組や、災害から県民を守る取組を加速させてまいります。

今年の干支「卯（うさぎ）」は、「飛躍」、「向上」を象徴するものです。今年が埼玉県の飛躍と向上の年となるよう、皆様とともに「ワンチーム埼玉」で県政に取り組んでまいります。

新年に当たって

全国水土里ネット
全国土地改良事業団体連合会
会長 二階俊博



令和5年の年頭に当たり、土地改良に携わる全国の皆様に、謹んで新年の御祝詞を申し上げます。

昨年は、新型コロナウイルス感染症の収束が見えない中、様々な感染対策を講じた上で、新型コロナウイルスへの対応と社会経済活動の両立を図るウイズコロナの方針が示されました。皆様におかれましては、「新しい生活様式」を日常生活に取り入れ、引き続き、感染拡大防止に十分ご留意いただきますようお願いいたします。

また、昨年は、ロシアによるウクライナ侵攻の影響もあり、一部の国では穀物の輸出規制が実施されるなど、食料流通の機能不全や食料価格の高騰など食料安全保障をめぐる負の影響が国際社会に生じました。

国内では、農業者の高齢化や減少により、農地や農業用水の管理に支障が生じているほか、燃料価格の上昇に伴う農事用電力料金の急激な高騰が土地改良区の運営を圧迫しています。

このような国内外の情勢にかかわらず、食料安全保障の観点から、日本の食料生産を支える農業生産基盤を維持し、国民の不安を解消していかなければなりません。

岸田内閣は、こうした状況を踏まえて「食料・農業・農村基本法」の見直しに着手しました。この検討の動きを注視しつつ、我々土地改良関係者は、農業・農村の喫緊の課題に積極的に取り組んでいく必要があります。

令和5年度予算につきましては、農業農村整備の着実な推進を求める全国の皆様からの熱意ある要請活動により、政府予算案において、4,457億円を確保することができました。この結果、令和4年度の補正予算を含めると6,134億円となります。

また、令和4年度補正予算において燃料価格の上昇に伴う土地改良区の電気代高騰分の7割を支援する仕組みが導入されました。

御尽力をいただいた当局をはじめ関係各位に心から御礼を申し上げます。

他方、第5次男女共同参画基本計画に続き土地改良長期計画においても令和7年度までに土地改良区及び土地改良区連合の女性理事の割合を10%以上とすることが成果目標とされており、我々土地改良団体における喫緊の重要課題となっています。

将来の組織体制の強化・発展のためにも女性参画を進めていかなければなりません。皆様の御理解と御協力を賜りたいと存じます。

さて、私は本会の会長に就任以来「闘う土地改良」を掲げ、組織一体となって闘ってまいりました。昨年の参議院選挙においては、土地改良の代表として進藤金日子参議院議員が見事に当選を果たされました。宮崎雅夫参議院議員と共に「車の両輪」となって、全国を駆け回り、皆さんの声を聞き、土地改良予算の確保だけでなく、現場が直面している課題解決の処方箋を国の政策に反映させるよう奮闘しておられます。皆さんの声が国会に届くよう、二人の活動の支援をお願いいたします。

輝かしい年の初めに当たり、本年も皆様各々の地域において更に農業・農村が活力を得て、一層発展しますよう御期待申し上げますとともに、様々な不安が払拭され、本年が全国の皆様にとって良き年であり、日々健やかに過ごされますよう御祈念申し上げます、私の新年の御挨拶といたします。

新年のご挨拶

全国水土里ネット会長会議顧問

しんどう かねひこ
参議院議員 進 藤 金 日子



新年、明けましておめでとうございます。埼玉県土地改良事業団体連合会の皆様には、旧年中、大変お世話になりました。お陰様で先般の参議院議員選挙で再選を果たすことができました。二期目においても、引き続き現場主義、地域主義に徹して政策実現に努めてまいりる覚悟です。本年も何卒宜しくお願い致します。

懸案の土地改良予算については、昨年12月に成立した令和4年度補正予算で1,677億円（TPP等対策：760億円、国土強靱化5か年加速化対策：817億円、食料安全保障対策：100億円）が措置され、また、令和5年度当初予算政府原案は昨年度より4億円増加の4,457億円で、補正予算と合わせて6,134億円となりました。これらには農業水利施設の電気料金高騰対策も盛り込まれ、地域の要望に応えられる所要の予算が確保できたものと考えています。

さて、昨年を振り返ると、新型コロナウイルス感染症が続く中、ロシアのウクライナへの侵略によるエネルギー価格、穀物価格や飼料価格の上昇、肥料価格の高騰等があり、これらは物価高として国民生活に大きな影響を与えています。政府は、エネルギー価格や電気料金、肥料価格等の高騰対策を講じていますが、物価高は本年も続くと思われます。引き続き、物価動向を注視しながら必要な対策を講じることが重要であり、私も各種対策の実現に貢献してまいりる覚悟です。

昨年7月の再選後、全国各地で講演等を行ってまいりました。そこで感じたのは、経済安全保障と食料安全保障に対する国民の意識の高まりです。昨年後半の円安の進行も踏まえ、各種生産拠点の国内回帰をはじめ国内での強靱なサプライチェーン再構築の緊急性を改めて認識し、食料安全保障の強化の必要性も痛感しております。

私は、「食料供給力」（国内生産力、輸入力、備蓄）の中で国内生産体制の強化が喫緊の課題で、まさに「食料自給力」の強化が不可欠であると訴えています。その最も基礎的なものが「農地・水等の農業資源」であり、自給力の強化を図るには、農地と水の持つ機能を高める土地改良を中長期的な展望の下、推進することが重要です。今後も予算を安定的に確保し、貴重な予算を適切に執行し、成果を出していく必要があります。

本年も土地改良推進に対する貴連合会の皆様のご協力をお願い致しますとともに、皆様からのご指導とご鞭撻を心からお願い申し上げます。新年のご挨拶といたします。

新年のごあいさつ

水土里ネット会長会議顧問

みやざき まさ お
参議院議員 宮崎 雅夫



新年明けましておめでとうございます。埼玉県土地改良事業団体連合会の会員各位ならびに関係の皆様へ謹んで初春のお慶びを申し上げます。

皆様方におかれましては、日頃より地域の水と土を守り、農業の発展や農山村の活性化に向け、農業農村整備事業の円滑な推進ならびに土地改良施設等の適切な管理や土地改良区の適正な運営にご尽力いただいておりますことに敬意を表しますとともに、旧年中は、私の活動に対し多大なるご支援とご指導を賜りましたことに衷心より感謝申し上げます。

さて、私も皆様方から多くのご支援をいただきながら、昨年8月まで農林水産大臣政務官を勤めさせていただき、その間、皆様方から多くのご要望等をお受けしましたが、それぞれの地域の課題解決等に向け、一所懸命に対応させていただきました。これらご要請の事項を含め、昨年12月に成立した令和4年度第2次補正予算では、農林水産関係で総額8,206億円、このうち、農業農村整備事業関係については、1,677億円が措置され、この中には、皆様方から強いご要望があった土地改良施設にかかる電力料金の高騰対策として、増嵩分の7割を支援する新たな制度も含まれています。また、令和5年度当初予算の概算決定額として、前年を上回る4,457億円が計上され、合計額6,134億円となる見込みとなりました。これから行われる国会での議論において、しっかりと確保できるよう一所懸命に努めてまいります。

さらに、昨今の国際情勢や長引くコロナ禍により、農業農村にも多くの影響が及んでいますが、とりわけ、我が国食料の安定供給を図る食料安全保障の確立に向けた取り組みが求められております。国内の食料生産を支える農地や水利施設等の整備・維持という重要な役割を土地改良が担っており、農業従事者数の減少傾向にも対応するスマート農業を含めた土地改良の促進や農業農村関係人口の拡大の取り組みなどを含め、しっかりと推進していくことが重要です。

私も、卯年の今年には年男を迎えますので、「食・土地改良・農山漁村は未来への礎」を理念に初心に立ち返り、これまでも増して現場主義に徹し、現場や地域の課題をしっかりと伺いして皆様のお声を国政に届け、必要な予算の確保と現場の実情に即した制度の充実に向け、誠心誠意努力してまいりますので、引き続きご指導とご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

結びに、埼玉県土地改良事業団体連合会ならびに関係機関の益々のご発展と、皆様方のご健勝を心より祈念申し上げ私の新年の挨拶とさせていただきます。本年もよろしくお願い申し上げます。



第44回 全国土地改良大会沖縄大会



第44回全国土地改良大会は、沖縄県の本土復帰50周年を記念し、11月22日、沖縄市の沖縄アリーナにおいて、『**水土里の拓くみるく世（ゆ）を 鳴らしとうゆまし守禮の邦（くに）から**』（みるく世：平和で豊かな世の中、鳴らし：発信しよう、とうゆまし：響かせよう）をテーマに、全国から農業農村整備にかかわる関係者2,300名が参集し、新たな農業の展開方向に即して、改めて農業農村整備の使命を再認識し、関係者の総力をあげて我が国の農業・農村をさらに発展させることを目的として開催された。

式典では、開催県である沖縄県土地改良事業団体連合会古謝景春会長の開会挨拶に続き、主催者の全国土地改良事業団体連合会二階俊博会長が「令和5年度の予算編成の大詰めを迎えておりますが、既に本年度補正予算において、土地改良区の電気代高騰分の7割を支援する仕組みを導入した。『戦う土地改良』を引き続き継続していくためにも、皆様からの更なるご尽力、一層のご支援をお願いしたい」と呼びかけた。さらに、玉城デニー沖縄県知事、桑江朝千夫沖縄市長から歓迎の挨拶があり、また来賓として、勝俣孝明農林水産副大臣、都道府県土地改良事業団体連合会会長会議顧問の進藤金日子参議院議員、宮崎雅夫参議院議員がそれぞれ祝辞を述べられた。

続いて、農林水産大臣表彰を含む67名の土地改良事業功績者表彰が執り行われ、本県からは、農林水産省農村振興局長表彰を滑川町吉田昇前町長が、全国土地改良事業団体連合会長表彰を新堀土地改良区竹内昭一理事長が、それぞれ受賞された。

基調講演では、安部伸治農林水産省農村振興局次長より「夢（いみ）をつなぐ土地改良」と題して講演があった。

その後、優良事例地区紹介として、農業生産法人(有)大嶺ファーム「地下ダムが変えた宮古農業とこれからの期待」、瀬名波土地改良区「読谷村軍用地返還跡地土地改良事業と瀬名波地区について」と題し、2団体の取り組み紹介があった後、沖縄県土地改良事業団体連合会の職員2名による大会宣言が採択された。

最後に、次期開催県の福井県へと大会旗の引き継ぎが行われ、福井県土地改良事業団体連合会山崎正昭会長の挨拶で、閉会となった。

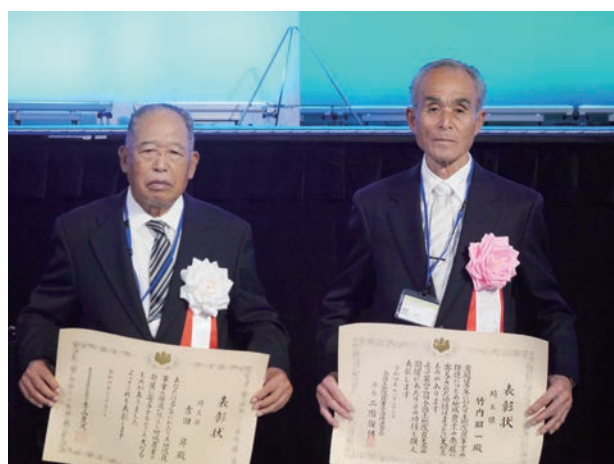
翌日は、沖縄本島南部土地改良区で管理している慶座地下ダム等の事業視察を行った。



二階会長挨拶



参加者の皆様



(左から)
農林水産省農村振興局長表彰 吉田 昇 氏
全国土地改良事業団体連合会長表彰 竹内 昭一 氏

農業農村整備の集い

“農を守り、地方を創る予算の確保に向けて”をテーマにした、全国水土里ネット、都道府県水土里ネットの主催による「農業農村整備の集い」が去る10月20日、シェーンバッハ・サボー（東京都千代田区）において開催され、コロナ禍の中、国会議員を含め約1,100名の土地改良関係者が駆けつけた。



全国水土里ネット 二階会長挨拶

本会合には、藤木眞也農林水産大臣政務官をはじめ、青山豊久農村振興局長、安部伸治農村振興局次長など農林水産省幹部が出席した。

はじめに、主催者である二階俊博全国水土里ネット会長より挨拶があり、「農家の方々に期待を持って働いていただける環境をつくるため、我々は、十分な予算確保に向け、一致団結する必要がある。さらに、男女共同参画の目標達成へ本格的に取り組むよう求め、『闘う土地改良』は、限りなく続く」と強調し挨拶された。

その後、自民党の遠藤利明総務会長、森山裕TPP・日EU・日米TAG等経済協定対策本部長、江藤拓総合農林政策調査会長、武部新農林部会長、進藤金日子参議院議員・都道府県水土里ネット会長会議顧問、宮崎雅夫参議院議員・都道府県水土里ネット会長会議顧問の順に祝辞が述べられた。

続いて、土地改良における男女共同参画を先駆的実践している水土里ネットやまなし・萩原丈巳総務課長に、その顕著な活躍を称え二階会長より感謝状を授与された。

その後土地改良関係予算の確保や、大規模災害からの復旧・復興を記した下記要請案文を来年の全国土地改良大会主催県である福井県の野坂雄二福井県土連専務理事が朗読し全会一致で採択した。また、女性理事の登用にいち早く取り組んだ岩手県胆沢平野土地改良区及川正和理事長から、その取り組みについての事例発表があった。

最後に、今年11月全国土地改良大会を開催する沖縄県土連知念武士副会長が登壇し、令和5年度当初予算の獲得を目指してガンバロウの発声後大きな拍手で閉会となった。

終了後、本県参加者は、本県選出の国会議員に要請活動を行った。

◆9の要請事項◆

- 一 食料自給力の維持・向上を通じて食料安全保障に寄与する土地改良事業の計画的・安定的な推進のため、令和4年度補正予算及び令和5年度当初予算において、必要な予算を安定的に確保すること。
- 二 大規模災害からの復旧・復興や再度災害防止の取組を早急に進めること。また、災害対応のデジタル化、事務手続きの更なる簡素化を図ること。
- 三 農業の競争力強化のため、農地の集積・集約化、米から高収益作物への転換、スマート農業の導入を促す農地整備を引き続き推進すること。
- 四 農村地域の国土強靱化のため、老朽化した農業水利施設の更新・長寿命化や、豪雨・地震対策等を引き続き推進すること。
- 五 ICT、AI等の先進技術を活用して、土地改良施設管理の省力化・高度化を図るとともに、情報通信技術を扱う土地改良技術者等の人材育成を図ること。
- 六 主として中小規模の土地改良区を対象とした合併等を推進するとともに、土地改良区における複式簿記の定着・活用、燃料価格や農事用電力料金の急激な高騰への対応など、運営基盤強化に対する支援を推進すること。
- 七 流域治水の取組推進に当たっては、関係する農業水利施設の管理者や田んぼダムに取り組む農業者に過度な負担や責任が生じないよう配慮すること。
- 八 水田活用の直接支払交付金の見直しにおいて、土地改良に与える影響を踏まえ、必要な措置を講ずること。
- 九 上記事項の推進に当たり、水土里ネットが有する技術、経験などを十分発揮できるよう配慮すること。

埼玉県知事への要望活動

本会では去る10月31日、県内8つの土地改良推進協議会長の連名で、大野元裕知事に予算要望活動を実施した。本会からは、三ツ林裕己会長（葛西用水路土地改良区理事長、衆議院議員）、原田信次副会長（美里町長）、坪井茂副会長（見沼代用水土地改良区理事長）、大岡早孝常務理事、細井清隆事務局長が県庁を訪れ、大野知事ほか、砂川裕紀、高柳三郎両副知事、小畑幹農林部長、木村眞司農村整備課長へ下記4項目の要望書を手渡した。

重点要望事項の説明に対して、大野知事から『農業水利施設等の管理を担い、県土の発展を支えている皆様に敬意を表すとともに、要望については、予算編成作業の中でしっかり検討していきたい』と述べられた。

重点要望事項

1 大区画ほ場整備の推進

農業の競争力強化の実現のため、担い手への農地集積・集約化、米の生産コストの低減及び野菜等の高収益作物導入を促す水田の大区画化、汎用化を推進すること。

2 農業水利施設の計画的な更新

農業水利施設の多くは、高度経済成長期に整備され、造成後40年以上が経過した施設が約4割を占め、老朽化が進んでいる。

これらの施設の機能を維持・発揮に必要な補修・更新を、計画的かつ着実に推進すること。

3 農業用ため池の防災、減災対策の推進

県内のため池468箇所内、防災重点ため池が244箇所ある。

市町村がこれらの耐震、豪雨及び劣化調査を実施したところ、9割を超える施設の防災工事が必要との結果となった。

国は、「防災重点農業用ため池に係る防災工事等の推進に関する特別措置法」により、令和12年度までに計画的に調査設計、工事の実施を目標としている。

防災重点ため池の補修、更新を、計画的かつ着実に推進すること。

4 農業集落排水施設の更新

県内の農業集落排水施設131か所について、老朽化が進行した施設の補修・更新を進めているが、令和3年度末現在で、供用開始後20年以上経過した施設のうち、補修・更新が未実施の施設は51施設ある。

農村における生活環境維持のため、施設の補修・更新を計画的かつ着実に推進すること。



（左から）原田副会長、三ツ林会長、大野知事、坪井副会長、大岡常務理事



意見交換の様子

令和4年度 第3回理事会・第3回監事会

本会は11月7日(月)に令和4年度第3回理事会・第3回監事会を開催した。次の議事について審議し、それぞれ全て原案通り可決された。

【第3回理事会議事】

議案第1号 令和4年度収支補正予算について
(報告事項) 今後の会議開催予定、令和4年度収支状況について

【第3回監事会議事】

議案第1号 令和4年度収支補正予算(案)の承認について



理事会の様子

農業基盤整備資金の金利改定について

令和5年1月19日付けの株式会社日本政策金融公庫の農業基盤整備資金の金利改定について、下記のとおりお知らせいたします。(単位：%)

区 分	改 訂 前					改 訂 後				
	融資期間にかかわらず	融資期間別(一例)				融資期間にかかわらず	融資期間別(一例)			
		5年	10年	15年	20年		5年	10年	15年	20年
都道府県営補助残	0.85	—	—	—	—	0.95	—	—	—	—
団体営補助残	0.70	—	—	—	—	0.80	—	—	—	—
非補助一般	0.70	—	—	—	—	0.80	—	—	—	—
非補助利子軽減	0.70	—	—	—	—	0.80	—	—	—	—
災害復旧		0.30	0.35	0.55	0.70		0.40	0.55	0.75	0.80

お問合せ先 水土里ネットさいたま 事業部農村整備課 根岸 TEL 048-530-7348

連合会日誌

開催日	会議・行事	開催地
10月	20日 農業農村整備の集い	東京都
	24日 男女共同参画推進研修会	鴻巣市
11月	1日 統合整備推進研修(会計研修)	鴻巣市
	4日 さいたま水土里ネット女性の会現地研修	東京都
	7日 第3回監事会・第3回理事会	熊谷市
	22日 全国土地改良大会沖縄大会	沖縄県
	28日~12月2日 土地改良区体制強化事業施設管理研修(後期)	さいたま市
	31日 埼玉県知事への要望活動	さいたま市
12月	8日~9日 水土里ネット職員研修会	栃木県

令和4年度 土地改良施設の診断・管理指導結果の概要

土地改良区体制強化事業 施設・財務管理強化対策において実施した「令和4年度土地改良施設の診断・管理指導」について、本年度は定期診断・要請診断を合わせ延べ45地区、79施設の診断を行った。



＜診断実施期間＞

定期診断：令和4年7月～10月

要請診断：令和4年7月～8月（緊急に要請診断が必要な場合等は期間外も実施）

＜診断対象施設＞

基幹的な土地改良施設で、農業用施設機能を有するおおむね以下の施設。

種目	ダム	頭首工	用排水機	樋(水)門	ため池	その他	水路
受益面積	10ha以上						20ha以上

◎定期診断指導

県内の基幹的土地改良施設を対象（下表）に、竣工年度や過去の整備補修年度等から勘案し、当会で選定した施設の診断指導を実施するもの。（10年サイクル計画）

【定期診断対象地区及び施設数】（H29年度土地改良施設調査より）

区分	土地改良区・市町村数			土地改良施設数							
	改良区	市町村	計	ダム	頭首工	用排水機	樋(水)門	ため池	水路	その他	計
埼玉県全体	76	30	106	-	24	875	488	-	-	-	1,387
うち令和4年度 診断対象	16	5	21	-	0	57	49	-	-	-	86

※ その他：水管理施設、除塵機など

◎要請診断指導

当年度定期診断指導施設以外の施設で、土地改良区等から要請のあった場合に実施するもの。

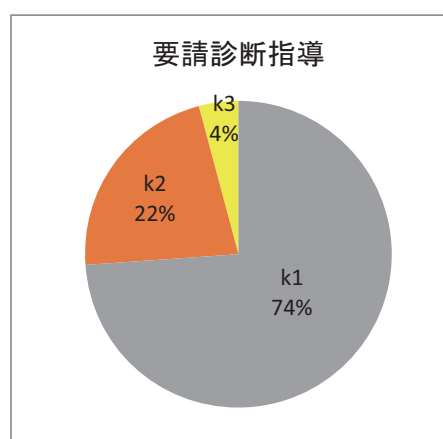
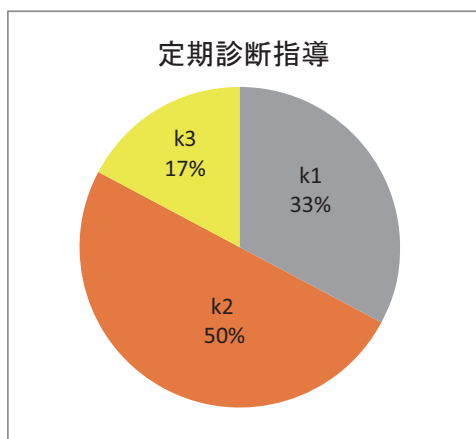
【令和4年度 診断実施施設】

(R5.1.5時点)

区分	土地改良区・市町村数 ※重複地区あり			土地改良施設数								指導延日数
	改良区	市町村	計	ダム	頭首工	用排水機	樋水門	ため池	水路	その他	計	
定期診断指導	4	1	5	-	0	2	4	-	-	-	6	37
要請診断指導	31	9	40	0	2	43	16	1	8	3	73	
計	35	10	45	0	2	43	20	1	8	3	79	

【令和4年度 診断結果】

総合評価	k1	k2	k3	k4	計
定期診断指導	2	3	1	0	6
要請診断指導	54	16	3	0	73
計	56	19	4	0	79



緊急度 重大 (k1)	機能低下が著しく、早急に整備補修を要するもの
緊急度 大 (k2)	機能低下が見られ、整備補修の検討を要するもの
緊急度 中 (k3)	経年的な機能低下傾向にあり、計画的な整備補修の検討を要するもの
緊急度 小 (k4)	運用上支障はないが機能低下の兆候も出てきており、経過の観察を要するもの

本年度診断施設の適正化事業への加入計画予定状況 (R5新規加入に限る)

定期診断 6 施設中、 1 施設
 要請診断 73 施設中、 31 施設 ※R5.1.5時点

令和5年度 農林水産予算概算決定の概要

令和5年度予算の政府案が昨年12月23日(金)に閣議決定されました。

農林水産予算総額は別表のとおり2兆2,683億円(対前年比99.6%)を計上。このうち農業農村整備事業概算決定額は、3,323億円(対前年比100.1%)となっている。

総括表 令和5年度農林水産関係予算の骨子

区 分	4 年 度 予 算 額	5 年 度 概 算 決 定 額
農 林 水 産 予 算 額 (対前年度比)	22,777 億円	22,683 億円
1. 公 共 事 業 費 (対前年度比)	6,980	6,983
一 般 公 共 事 業 費 (対前年度比)	6,780	6,782
災 害 復 旧 等 事 業 費 (対前年度比)	200	201
2. 非 公 共 事 業 費 (対前年度比)	15,797	15,700

(注) 1. 金額は、関係ベース。
2. 計数整理の結果、異動を生じることがある。
3. 計数は、四捨五入のため、端数において合計とは一致しないものがある。

公共事業費一覧

区 分	4 年 度 予 算 額	5 年 度 概 算 決 定 額
農 業 農 村 整 備 (対前年度比)	3,321 億円	3,323 億円
林 野 公 共 (対前年度比)	1,867	1,875
治 山 (対前年度比)	620	623
森 林 整 備 (対前年度比)	1,247	1,252
水 産 基 盤 整 備 (対前年度比)	727	729
海 岸 (対前年度比)	81	81
農 山 漁 村 地 域 整 備 交 付 金 (対前年度比)	784	774
一 般 公 共 事 業 費 計 (対前年度比)	6,780	6,782
災 害 復 旧 等 (対前年度比)	200	201
公 共 事 業 費 計 (対前年度比)	6,980	6,983

(注) 1. 金額は、関係ベース。
2. 計数整理の結果、異動を生じることがある。
3. 計数は、四捨五入のため、端数において合計とは一致しないものがある。
4. 農業農村整備事業関係予算は、6,134億円。その内訳は以下のとおり。
・ 農業農村整備事業 3,323億円
・ 農山漁村地域整備交付金のうち農業農村整備分 591億円
・ 非公共の農業農村整備関連事業 543億円(農地耕作条件改善事業、畑作等促進整備事業、農業水路等長寿命化・防災減災事業、農山漁村振興交付金)
・ 4年度補正額(農業農村整備事業) 1,677億円

水土里ネット職員研修会

去る12月8日(木)から9日(金)にかけて、土地改良区職員を対象にした標記研修会が開催され、19名の方々にご参加いただきました。

研 修

1 バス車内研修

① 男女共同参画の推進について

講師：埼玉県土地改良事業団体連合会 事務局長 細井 清隆 氏

② 土地改良施設緊急支援事業について

講師：埼玉県土地改良事業団体連合会 総務部団体支援課長 加藤 勝 氏

2 那須野ヶ原土地改良区連合

① 那須野ヶ原土地改良区連合について

—究極の生き残り作戦— ”米と電気は自分でつくろう”

講師：那須野ヶ原土地改良区連合 専務理事 星野 恵美子 氏

② 西岩崎頭首工見学

講師：那須野ヶ原土地改良区連合 事務局長 後藤 伸一 氏

3 農事組合法人 日光アグリサービス

○ ほ場整備を契機とした地域振興について

～集落営農組織の法人化と、地域の活性化について～

講師：農事組合法人 日光アグリサービス 代表理事組合長 沼尾 一郎 氏

栃木県土地改良事業団体連合会 土地改良換地士 福田 信博 氏



講師：星野 恵美子 氏



講師：沼尾 一郎 氏

研修を終えて

これから男女共同参画の推進に向けて、実際に先進地を視察することによって、女性の登用にかかる様々な課題を肌で感じられた研修となりました。土地改良区の皆様には、研修の成果を持ち帰っていただき、今後の運営に役立てていただければと思います。

さいたま水土里ネット女性の会 現地研修会

さいたま水土里ネット女性の会は、令和4年11月4日、活動計画の一環として現地研修会を実施し、県、土地改良区、県土連の女性職員を合わせて、25名が参加した。

研修では、豊洲市場、国会議事堂内の見学や衆議院議員会館議員事務所への訪問と有意義な研修になった。議員会館で進藤金日子都道府県水土里ネット会長会議顧問から、令和4年度農林水産関係の補正予算についてのお話を伺った。国会議事堂では、衆議院の本会議場や伊藤博文、板垣退助、大隈重信の銅像が立っている中央広間、議事堂の中で最も華麗なつくりとなっている天皇陛下の御休所、各都道府県から寄贈された木が植えられている前庭を見学。歴史ある建物や豪華な装飾に参加者一同が感動した。見学終了後には、土地連三ツ林会長（さいたま水土里ネット女性の会顧問）、宮崎雅夫都道府県水土里ネット会長会議顧問のお二方に駆けつけていただき、土地改良区における女性の活躍について述べられた。

今回の研修は、女性の会設立後、初めての現地研修会だったが、「他の土地改良区の方々と交流ができて、とてもよかった。」「普段はなかなか行けない場所を見学し、貴重な経験ができた」などの感想をいただき、会員同士のコミュニケーションも図れ、各々の見分を広めることができた。今後は会員の皆様とのネットワークをさらに広げ、活躍を促進するための研修を計画していきたい。



三ツ林会長と記念撮影



豊洲市場外観



進藤金日子顧問と記念撮影



宮崎雅夫顧問と記念撮影

お知らせ

◆土地改良区理事、監事、職員並びに市町村担当職員等研修会

各土地改良推進協議会（さいたま、川越、東松山、秩父、本庄、大里、加須、春日部）合同で下記のとおり開催いたしますので、お知らせします。

と き 令和5年3月1日（水）

場 所 鴻巣市文化センター（クリアこうのす）小ホール

お問合せ先 水土里ネットさいたま 総務部団体支援課 加藤 TEL 048-530-7356

※新型コロナウイルス感染症の感染状況によっては中止となる場合がございます。

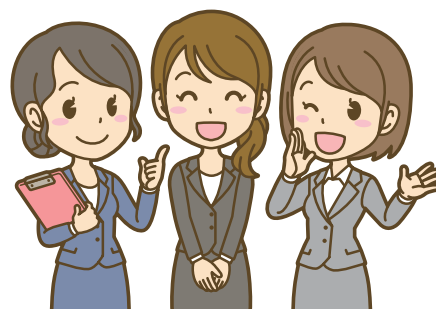
◆さいたま水土里ネット女性の会 会員募集中です！

さいたま水土里ネット女性の会は、ネットワークを継続していけるような仕組みを作っていくことで、会員同士の交流を深め、お互いが啓発しあう中で自身のスキルや能力を向上させること、女性活躍に向けた環境づくりを促進することを目的とした組織です。

資 格 本会の目的に賛同する各地域水土里ネットの女性職員（臨時職員含む）

会 費 なし

会員数 67名（令和4年12月現在）



お問合せ先 水土里ネットさいたま 総務部総務課 天野 TEL 048-530-7335

第10回 彩の国 農業・農村景観フォトコンテスト

テーマ ～埼玉を彩る農業・農村の水土里みどり～

本会では、さいたま・川越・東松山・秩父・本庄・大里・加須・春日部の各土地改良推進協議会との共催で、第10回「彩の国 農業・農村景観フォトコンテスト」を開催した。

埼玉県内の豊かな自然環境や美しい農村環境、農業の魅力を広く一般の方々に紹介し、関心を高めていただくために、「埼玉を彩る農業・農村の水土里（みどり）」をテーマに募集したところ、県内の多くの方々からご応募をいただき、全313点の作品が集まった。

写真家の吉田功氏をはじめとした18名の審査員による審査が行われ、水土里ネットさいたま会長賞1点、各土地改良推進協議会会長賞8点、入選10点、学生優秀賞、審査員長特別賞が決定した。



吉田審査員長



審査の様子



会長賞の皆様



入選・特別賞の皆様

表彰式は令和4年12月13日(火)本会大会議室において開催され、吉田審査員長より講評をいただき、受賞者の方々には表彰状と記念品が授与された。

また、令和5年1月13日(金)から15日(日)の3日間、さいたま市のレイボックホール（さいたま市民会館おおみや）展示室において写真展を開催した。



写真展の様子



彩の国 農業・農村景観フォトコンテスト

写真展

埼玉を彩る

農業・農村の水土里みどり

2023.01.13 [金] - 01.15 [日]

開 場：9時～17時（入場は15分前まで）
 会 場：レイボックホール（さいたま市民会館おおみや）
 展示室（大宮門前 北5丁4番）
 〒330-0948 さいたま市東区宮前大門前1-115
 ①良郷・ニュータウンほか 大宮駅東口より徒歩9分

入場料：無料

【主 催】 埼玉県土地改良事業推進協議会（水土里ネットさいたま）

【協 賛】 さいたま土地改良推進協議会、川越土地改良推進協議会、東松山土地改良推進協議会、秩父土地改良推進協議会、本庄土地改良推進協議会、大里土地改良推進協議会、加須土地改良推進協議会、春日部土地改良推進協議会

【期 間】 埼玉県



水土里ネットさいたま
埼玉県土地改良事業推進協議会

TEL 048-530-7352



受賞作品



水土里ネットさいたま会長賞
 「濃霧の中で」 寺澤 俊博
 (撮影場所：狭山市堀兼)

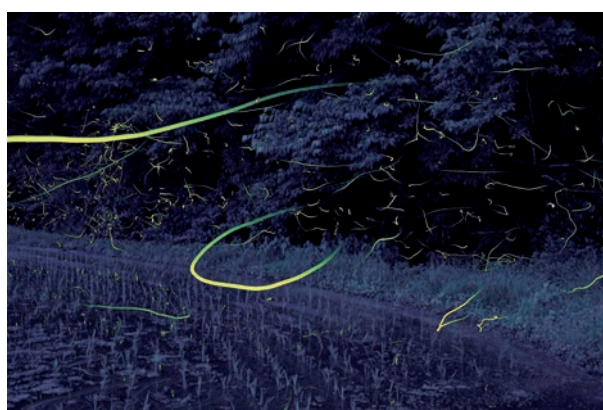
講評：霧で背景が見えないことで、収穫作業する人物が強調されました。高齢者と思えない二人は、夫婦なのか友人同士なのか。いずれにしても若い世代が、農業に従事してくれることで県内の農に対する不安が和らぐ。このタイミングを狙っていた作者に拍手です。



さいたま土地改良推進協議会会長賞

「泥まみれになって」 中條 義男
 (撮影場所：さいたま市見沼区)

講評：広角レンズを使用して、苗のそばまで寄って撮影したことで、苗に育つ強さが表現されました。親子で取り組む体験学習ですが、ボランティアの存在感も効いています。全体に爽やかさと広がりがあります。苗のスペースを多くしたのが成功しました。



川越土地改良推進協議会会長賞

「ホタル舞う頃」 大谷木 春男
 (撮影場所：毛呂山町)

講評：完成度の高い作品になりました。水田に植えられた苗もしっかりわかるし、水面に映る蛍光も光跡も表現されています。撮影の時間帯、機材の準備、蒸し暑い無風状態等、作者の計算通りでした。ベテランならではの傑作です。



東松山土地改良推進協議会会長賞

「朝霧が出て」栗島 進
(撮影場所：吉見町)

講評：一見すると風景写真のように見えます。作物が何かわかりづらいのが難点です。この広さですから何も無いわけがない。霧の向こうの太陽に魅かれたかも知れませんね。手前の稲が麦かを広角で大きく写し、朝霧と太陽を入れれば良かったと思います。



秩父土地改良推進協議会会長賞

「初冬」野口 伸一
(撮影場所：皆野町)

講評：軒下に干し柿、屋根に大根。秩父地方の風物詩です。毎年この頃になると農家の主婦は冬支度に追われるのでしょいうね。屋根に樹木の陰があることで、陽だまりに干していることや、女性が大根を手にしたタイミングで撮ったことは見事でした。



本庄土地改良推進協議会会長賞

「ダムからの流れ」飯川 逸彦
(撮影場所：本庄市)

講評：有形登録文化財としての間瀬堤管理橋。コンクリートが苔に覆われて歴史を感じます。泡の流れをブラす狙いでしたが、シャッター速度が遅すぎて急流になりました。橋の苔や歴史をしっかり写したのに、ゆったりとした時の流れと矛盾したのが惜しまれます。



大里土地改良推進協議会会長賞

「麦のめざめ」今井 秀和
(撮影場所：熊谷市)

講評：朝日を浴びた麦畑に曲線を描いて、穂が生育している光景が見事です。斜光線が作り出す林の陰が、この麦をいっそう引き立てています。上部をトリミングすると麦畑の広さや輝きをさらに印象付けたことでしょう。



加須土地改良推進協議会会長賞

「田んぼ遊び」馬場 歩
(撮影場所：行田市)

講評：今ではほとんど見る事のない虫取り網で遊ぶ姿。広がりのある田園地帯を背景に少女を低いポジションから撮影したことで、子どもに元気の良さを感じます。夕方の柔らかな光がこの少女を魅力的にしています。構図的にも良かったですね。



春日部土地改良推進協議会会長賞

「たそがれ」斉藤 郁太郎
(撮影場所：久喜市)

講評：見事な一枚です。すぐ目につきました。偶然の一枚と謙遜していますが、日頃からの水田の広がりや日が沈む方向など承知して撮れた作品でしょう。田に日が映り込むタイミング、そこに人物が入り込む読み、太陽を入れずに撮ったことなど優れた作品でした。



審査員長特別賞

「農を受けつく」小沢 昭江
(撮影場所：坂戸市)

講評：女性らしい視点で撮影されました。運転する娘に直接声を出して助言する父。声を出さずとも、心配で両手に力が入る祖父。この場面を正面から撮れたのは作者が母親だからかな？後方の鉄塔が左寄りのバランスを支えています。



学生優秀賞

「小さなスイカ」北崎 想大
(撮影場所：幸手市)

講評：こうした球面の被写体は初心者が、ピントを合わせるのに苦労するのですが、この作品はそういう問題を難なくクリアしています。手前の繊毛がしっかり見えています。スイカの下倒木を半分にして、上部のつるがつながるよう撮れると生命力も表現出来ました。

入選



「回転まぶしを吊る親娘」
野原 清
(撮影場所：長瀨町)



「仲春の田んぼ道」
高橋 範人
(撮影場所：さいたま市桜区)



「麦秋」
矢板 博
(撮影場所：飯能市)



「春の農作業」
田中 幸男
(撮影場所：小川町)



「誇り」
田中 薔華
(撮影場所：横瀬町寺坂棚田)



「レタス畑」
渡辺 郁花
(撮影場所：美里町)



「ジャンボ麦ワラ人形」
真下 廣義
(撮影場所：熊谷市)



「収穫の花田圃」
清水 洋
(撮影場所：加須市)



「田植前の準備」
堀之内 稔
(撮影場所：蓮田市)

